

水に親しみ学ぶ安全対策

2026年
2/28

着衣水泳体験会

水難事故などに備えて対処法を学ぶ、着衣水泳体験会が白糠温水プールで開催されました。この日は、小学生とその保護者が参加し、服を着たまま水に落ちた際に対処法を学びました。参加者は「服を着ているとすごく体が重く感じた」「浮くことの大切さがわかった」などと話し、着衣水泳の心得を学びました。



ペットボトルを使って浮く方法を実践する小学生

一年間の来館目標を達成

2026年
2/22

恋問館来館者数75万人
記念セレモニー

昨年4月に移転オープンした「道の駅しらぬか恋問館」の来館者数が、年間の目標であった75万人を前倒しで達成したことから、記念のセレモニーが行われました。セレモニーでは、記念の来場者となった釧路市の加地亨さん一家にチーズやししゃもなどの特産品を詰め合わせた記念品が贈呈されたほか、くす玉を割って目標達成を祝いました。



くす玉割りに参加する加地さん一家（中央の4人）

未来の技術者が新たな一歩

2026年
3/5

掘削技術専門学校卒業式

掘削技術専門学校（井上政史校長）の卒業式が行われ、卒業生13人が学び舎を後にしました。式では、井上校長が「それぞれの道でさらなる知識と技術の経験を積んで、活躍してください」と式辞を述べました。卒業生代表の安齋公康さんは「会社の一員として、地下資源開発の最前線で活躍する技術者になれるよう、日々精進していきます」と謝辞を述べました。



今後の活躍を誓い祝辞を述べた安齋さん

清拭用タオルとして

2026年
3/4

女性ボランティアクラブ
タオル等寄贈

白糠町女性ボランティアクラブ（桧森千枝子会長）から特別養護老人ホーム清和園にタオル290枚、ティッシュペーパー80個と雑布が、また釧路丹頂農協女性部白糠支部からもタオル100枚が同施設に寄贈されました。桧森会長は「今年で30年目の寄贈となりました。これからも続けていきたいです」と話し、受け取った清和園の二色郁子事務局長が寄贈に感謝をしていました。



二色事務局長（右）と清和園を訪れたクラブの会員

白糠の魅力を発信

2026年
2/19
~20

しらぬかまるごと
体験マルシェ

町の特産品を集めた物産展「しらぬかまるごと体験マルシェ」が北海道新聞社ビル（札幌市）で開催されました。物産展では、毛ガニやししゃも、チーズ、鹿肉など多くの特産品を販売されました。2日目に行われた「アイヌ文化体験」にも大勢の方が訪れ、アイヌ文様の刺繍などを体験しました。来場者は、白糠の味覚や文化にふれながら、楽しいひとときを過ごしました。



2日間で約470人が来場しました

白糠の味を知る

2026年
2/19

給食試食会

町の学校給食を知ってもらう機会として行われている、給食試食会が給食センターで開催されました。試食会では、酪恵舎のモンヴィーズチーズを使用したチーズカレー、驚きの森のブルーベリーを混ぜたヨーグルトクリームなどが提供されました。参加した町民14人は、白糠の食材を使用した給食を味わい「おいしいね」と笑顔を見せていました。



給食を味わう参加者

冬季は初めての開催

2026年
2/20

アイヌ料理講座

アイヌ料理講座がウレシパチセで開かれ、町民8人が参加しました。講師は白糠アイヌ文化保存会の新藤真奈美さんと木村明日香さんが務め、「ポネオハウ（豚骨の汁物）」「ホッキのラタシケプ（まぜもの）」など3品を作りました。田口紀子さんは「オハウは骨から煮出しただと塩だけの味付けでもすごくおいしい」と話していました。



出来上がった料理を試食する参加者

ワインと味わう白糠の味覚

2026年
2/19

しらぬか美食倶楽部

町の旬の食材を使用した特製メニューと、ソムリエが厳選したワインを楽しむ「しらぬか美食倶楽部」が札幌市のグローブウィズアクアスタイルで開催されました。会場では、白糠町出身の高橋千秋シェフが監修した、白糠産品を使った釜飯やソーセージ、フロマージュなどが提供されました。参加者は「白糠のおいしさに触れることができた」「白糠に行ってみよう」と話していました。



白糠の味覚に触れようと約80人が参加しました